

## 1 目的

農業経営者育成を推進するために視察研修及び講習会等を行う。併せて、小中学生を対象に体験学習等を実施し、生徒募集を行うとともに農業への興味や関心を持ってもらう。

1年生は営農講座や農業大学校、農業開発センター等の視察研修の実施、2年生は農業インターンシップ、3年生は就農志向者研修や営農の門出を励ます会の実施で計画を進める。

耕種部門は、植物の栽培管理や経営の基礎を学習するとともに、生産物の6次化やGAP教育を行う。畜産部門では、家畜の飼育管理を学習し、畜産共進会や和牛甲子園への出品に向けて肉質向上や優良生産者育成に努める。併せて、全学科を対象にスマート農業について学んだり販売実習を行ったりして学習を深めた。

## 2 実施状況

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な行事を中止または規模縮小で開催せざるを得ない状況であった。今年度実施した事業について紹介する。

### (1) 視察研修(1年生)の実施

本県の農業の実態や農政の現状について1年次より理解を深め、農業経営者育成のために実施している。自営学科1年(義務入寮生)を対象に、県立農業大学校及び県農業総合開発センターの視察を行った。

今年度も1回のみの実施となった。

高校卒業後、農業大学校への進学を考えている生徒もいることから、進路活動に向けて具体的に取り組める良い機会となった。また、本県農業の実態について理解を深めることができ、農業への興味・関心を高めることができた。

### (2) 農業インターンシップ(2年生)の実施

例年、総合実習の一環として自営者養成学科の生徒が7泊8日の日程で農家委託実習を行ってきたが、今年度から4日間(自宅からの通い)に変更し農業体験を行った。

慣れない環境で初めて行う作業もあり、生徒達は戸惑うこともあったが無事実施することができた。

今回の経験も含め進路選択の一助にしてほしい。

### (3) 営農の門出を励ます会(3年生)の実施

コロナ感染対策として規模縮小・時間短縮で実施した。

農業大学校、農業法人、農業関連企業への進路決定者を対象に実施した。

各学科代表が抱負発表を行い、最後は本校製造の豚味噌缶詰で「缶杯(かんぱい)」をした。



## 3 今後の課題、取組

今年度の農業関連への進路決定者は19名であった。非農家出身の生徒が増えている中、今後も日常の授業や実習、就農促進対策事業や後継者育成対策事業を通して農業に対する理解を深め、農業関連産業への進路決定に繋げていきたい。また、小中学生が入学したい、在校生が入学して良かったと思える魅力ある学校づくりに取り組んでいきたい。また、今年度コロナの影響で実施できなかった諸行事についても計画的に準備を進めていきたい。